

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	西　区
学校名	明治小学校
学校長名	酒居 国宏

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・明治小学校では、第6学年 55名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数については、平均正答率において全国平均ならびに大阪市平均を上回り、着実な学力の定着が確認できる結果となった。特に算数においては、全国平均を6ポイント以上、上回るとともに、全ての領域別問題において、全国平均を上回る結果であった。本校の研究活動として算数の授業改善に取り組んできた経過があり、その成果の表れと考えられる。一方、理科の平均正答率において、大阪市平均については上回ったが、全国平均を1.3ポイント下回る結果であった。「地球」を柱とする領域や「粒子」を柱とする領域において、全国平均を下回る平均正答率であった。十分な理解を図ることができていない領域について学び直しが必要だと考える。また、国語、理科においては、記述式の問題形式を苦手としている傾向が見られた。論理的な思考や判断ができる力を養うとともに、自分の考えを順序立てて文章に表すことに慣れ親しみ、的確に相手に伝えることができる表現力を伸ばしていく必要がある。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 学習活動のさまざまな場面で、協働的な学びの場を設け、主体的・対話的で深い学びとなるように取り組んでいる。それにより、「話すこと、聞くこと」に関する内容において力を発揮できている傾向が見られた。しかしながら、文中の表現に応じて漢字を正しく書くことをはじめ、自分の考えを文章で表現することなど、「書くこと」に課題が見られる結果であった。

〔算数〕 児童が主体的に問題解決の見通しを持って学習活動に臨み、問題解決に向けて考える中で、さまざま方法を試し、よりよい問題解決の方法を児童同士の対話的な学びを通して見つける活動を大切に授業改善を図り、算数の学習指導を取り組んでいる。その結果、全ての学習領域で大阪市平均ならびに全国平均を上回る結果であり、授業改善の成果が表れている。しかし、数量の変化と割合との関係性について十分理解できていない傾向が見られるので、割合について学び直しが必要である。

〔理科〕 学校近隣の公園にあるビオトープを教材として活用し、地域のゲストティーチャーをお招きしながら体験的な活動を中心に環境学習に取り組んでいる。その成果として、生物に関する問題において、全国平均を大きく上回る平均正答率を示していた。本校の強みと言える結果であった。しかし、一方で、実験を通して試してみたい他者の考えを分析・解釈し、それに対する自分の見解を記述する問題について苦手とする傾向が見られ、記述式の問題における無解答率も他の問題に比べて高い結果であった。

質問紙調査より

自己肯定感や自尊感情を持つことが、学習に対して意欲的な児童を育てることにつながると考える。質問番号7に見られる自分にはよいところがあると思っている児童が全国平均を大きく上回る結果は、学力の向上にとっても、望ましい傾向である。本校では、学校全体で、児童の活動を認め、褒め、児童とともに感動し、ともに喜ぶ実践に取り組んでいる。その取り組みが、質問番号8の肯定的回答率が96%以上という結果に表れ、自己肯定感や自尊感情の高揚にもつながっている。また、質問番号10の回答傾向にも見られるように、自らが決定した事柄に対して粘り強く取り組む傾向が表れており、教科に関する調査での無解答率の低さにもつながっていると考える。さらには、質問番号17の回答に見られるように、協働的な学びの実践を進めていく中で、自分と違う意見について考えるのが楽しいと感じている児童が増加傾向にあり、協働的な学びの活性化につながる好ましい傾向であると捉えている。質問番号65においては、理科の学習に対して有用感を持っている児童が少ないことが明らかになった。児童が、理科の学習のおもしろさ、興味深さを感じることができるような授業改善を、今後学校全体で図っていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

教科学習においては、主体的・対話的で深い学びにつなげるための授業改善を、教員研修や校内研究活動を通して行っていく。授業改善の重点としては、学習活動において協働的な学びの場を設定するようにし、児童が互いに意見を交流したり、協力し合って作業や活動を進めたりしながら学びを深める授業をめざしていく。指導者は、授業において、主体的な学びになっているか、対話的な学びになっているか、深い学びになっているか、常に振り返りながら授業力の向上に努めていく。また、協働的な学びは、児童の学習活動のみに求めるのではなく、教職員の研修、研究、職務遂行においても協働的に進めることで教職員間の連携を深めることができる。そして、そのことが、児童の学習活動の活性化にも生かされる好循環につながると考える。さらに、児童の学習意欲を喚起するためには、教職員の承認、励まし、力づけが効果的であり、児童とともに感動し、児童ともに喜ぶ教職員の姿勢が欠かせない。児童の自己肯定感や自己有用感を確かなものにし、自尊感情へと高めていく実践が、児童の学力向上の営みを力強く後押しするものと考え、これらの取り組みを学校全体で進めていく。

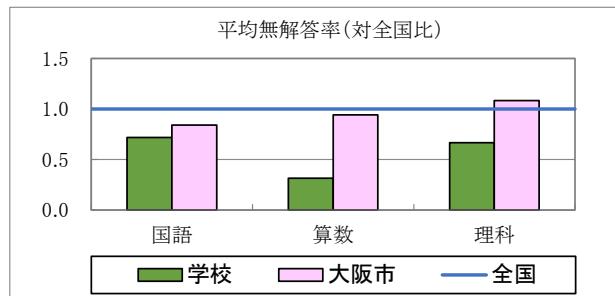
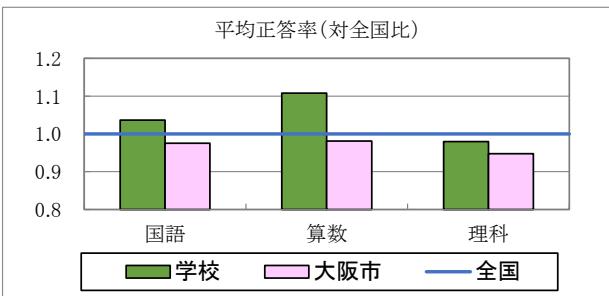
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	68.0	70.0	62.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	4.1	1.1	2.4
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6

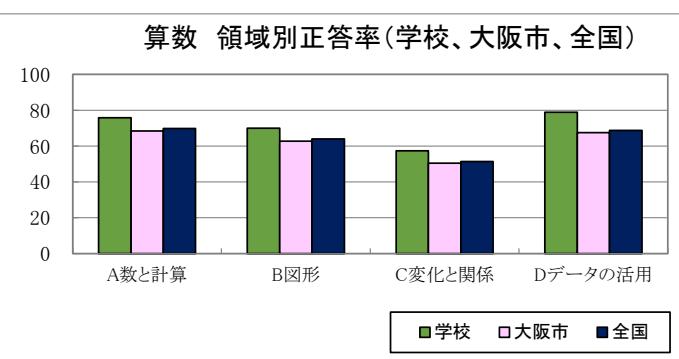
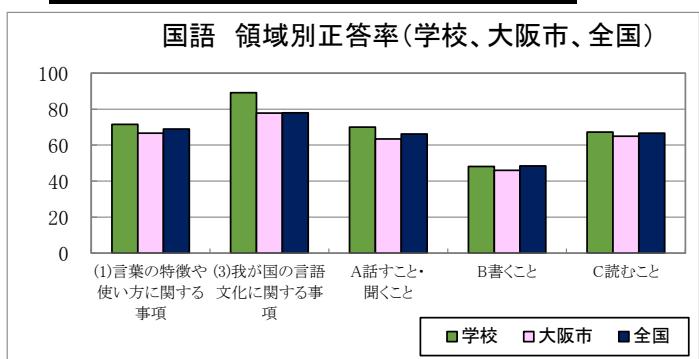


【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	5	71.6	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語 文化に関する事項	1	89.1	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	70.0	63.4	66.2
B 書くこと	2	48.2	46.0	48.5
C 読むこと	4	67.3	65.0	66.6

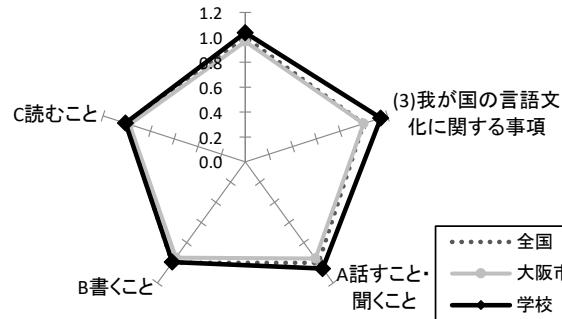
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	75.8	68.4	69.8
B 図形	4	70.0	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	57.3	50.5	51.3
D データの活用	3	78.8	67.5	68.7



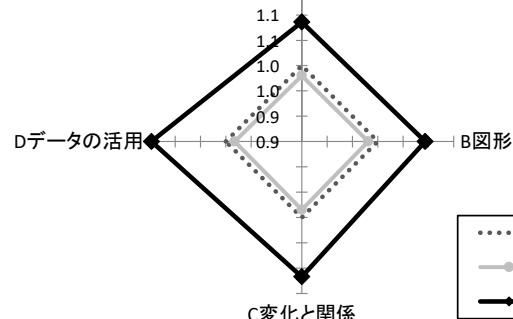
国語 領域別正答率(対全国比)

(1)言葉の特徴や使
い方に関する事項



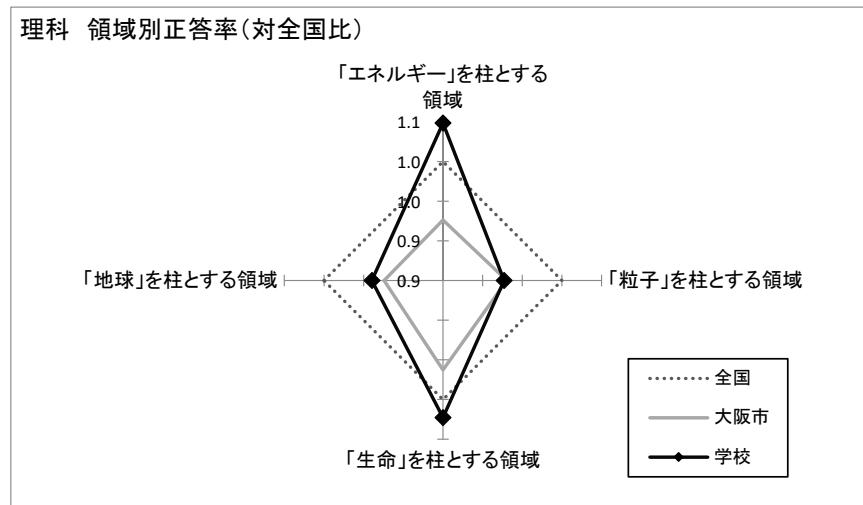
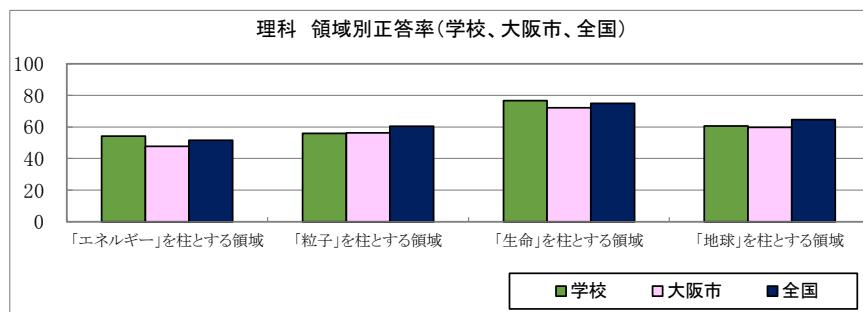
算数 領域別正答率(対全国比)

A数と計算



【 理科 】

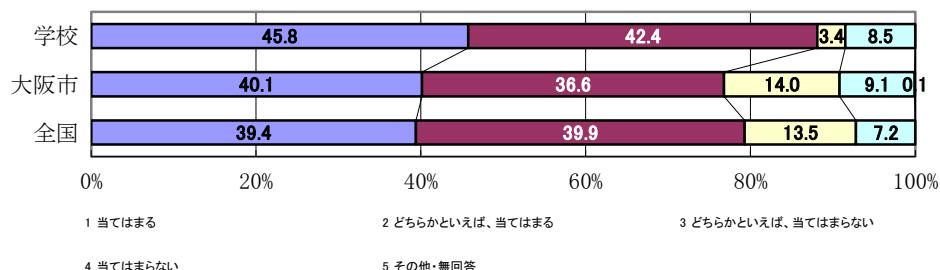
学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	54.1	47.8	51.6
	「粒子」を 柱とする領域	5	56.0	56.2	60.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	5	76.7	72.2	75.0
	「地球」を 柱とする領域	5	60.7	59.7	64.6



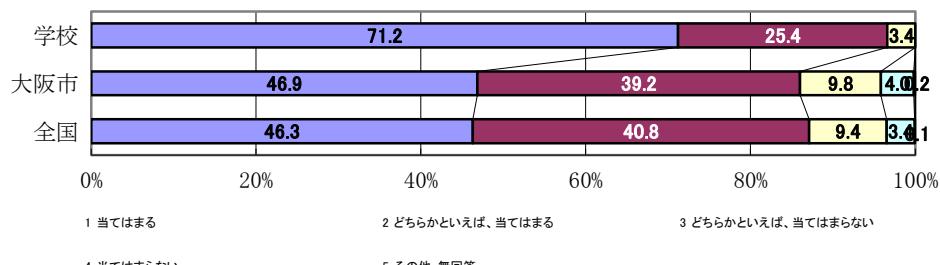
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

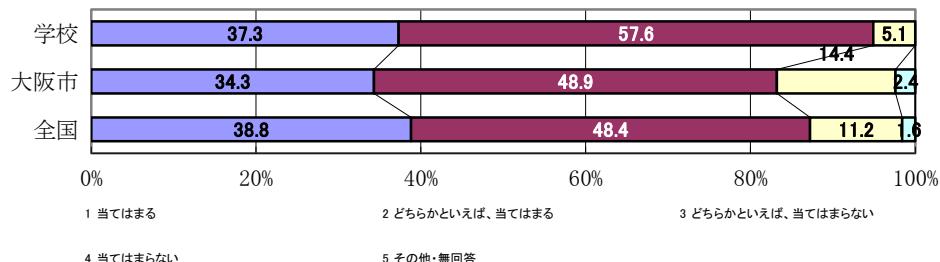
質問番号
質問事項
7
自分には、よいところがあると思いますか



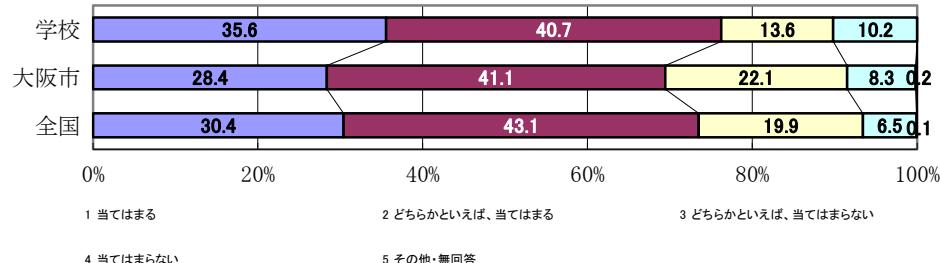
8
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



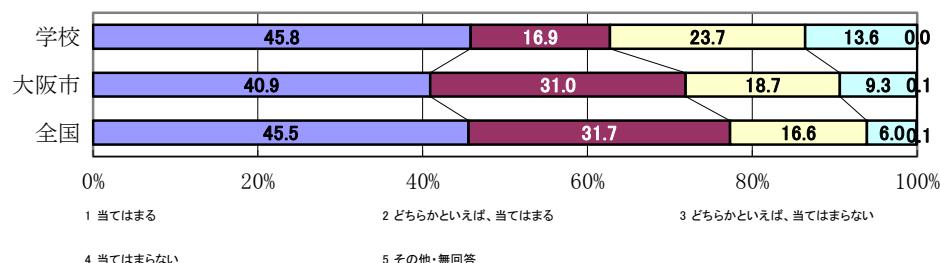
10
自分でやると決めたことは、やり遂げるようになっていますか



17
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



65
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



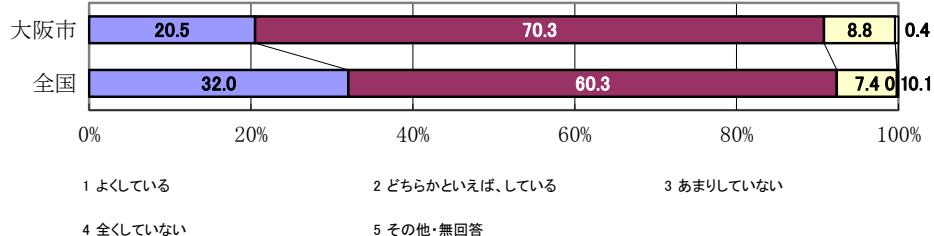
学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項
18

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

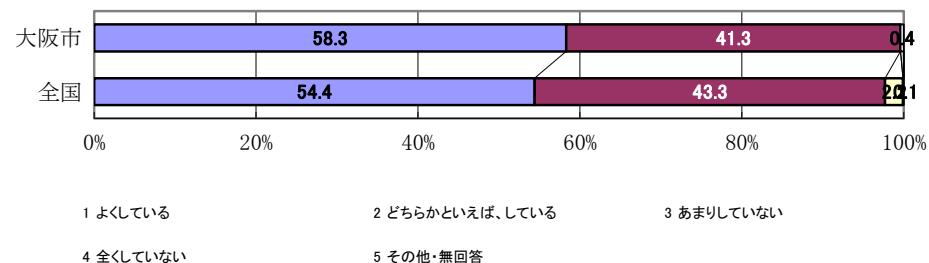
学校 「どちらかといえば、している」を選択



質問番号
19

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

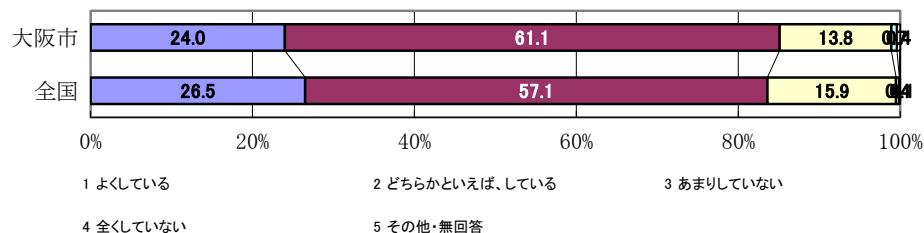
学校 「どちらかといえば、している」を選択



質問番号
20

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

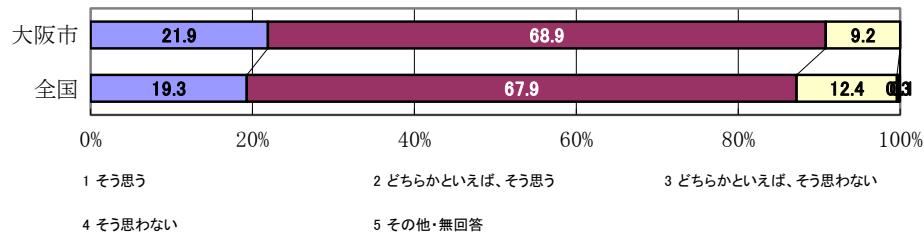
学校 「どちらかといえば、している」を選択



質問番号
23

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



質問番号
56

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

